AGRI WORK POINT
アグリ　ワーク　ポイント

茶
充実した樹体をつくりましょう

茶指導販売課　菊川　響

秋肥の施用

9月は、年間で最も肥料を吸収する時期です。秋肥は夏までの摘採で弱った樹勢を回復させ、翌年の一番茶の品質の向上につながる大切な肥料です。充実した樹体や根をつくるため、茶園の状態を観察し、土壌や気象に適した肥料の種類、時期などから適正に施肥をしましょう。

秋肥は、年間施肥量に対し30％の窒素と50％のリン酸・カリを施肥割合としていて、施肥設計に従って施用します。肥効を長く持続させるため、8月中下旬と、9月下旬の2回に分けて施用しましょう。施肥後は浅く耕して土と混ぜ合わせ、肥料成分を効率良く茶樹に吸収させましょう。

病害虫の防除

この時期に生育するのは翌年の一番茶の母体となる親葉です。新葉に受けた病害虫の被害は、翌年の一番茶に大きく影響しますので、品質を保つために防除を行いましょう。

9月上旬（秋芽開葉期）

9月上旬頃はチャノミドリヒメヨコバイやチャノキイロアザミウマ、ハマキムシ類などの病害虫が発生し、葉の褐変や生育障害などの被害をもたらします。また、葉層が厚くなっていますので、薬液散布の際はゆっくり丁寧に散布し、株内にも充分かかるようにしましょう。

また、病害虫の耐性が高まるのを避けるため、同系統の薬剤の連用を避けて防除を行うことが大切です。使う薬剤については、各地域の営農経済センターや防除暦などの情報を参考にしてください。